

2019年JAF全日本ラリー選手権第4戦 Sammy 久万高原ラリー [JAF公認No.2019-7005]

開催日: 5月3～5日 開催場所: 愛媛 格式: 国内

主催: MAC [クラブ登録No.加盟38022]、ETOILE [クラブ登録No.加盟38001]、DCR [クラブ登録No.加盟38009]

フォト/中島正義、山口貴利、JAFスポーツ編集部 レポート/JAFスポーツ編集部

名物ステージの大川嶺を走る新井大輝／小坂典嵩組のWRX。LEG2では道を選ばぬ速さを見せてライバル達を突き離れた。



新井大輝 WRX が全日本ラリー復帰戦で衝撃の速さを披露

全

日本ラリー選手権はシリーズ前半の舗装3連戦を締め括る久万高原ラリーが、ゴールデンウィークの5月3～5日に愛媛県で行われた。

昨年はタフなグラベルの一戦として行われた久万高原ラリーだが、今年はトータル110kmのSSを走り込む舗装ラリーが用意された。ステージはこのラリーではすっかりお馴染みとなった感のある「西谷」(約13.6km)、「大川嶺」(約14.0km)の2本。土曜のLEG1は、西谷、大川嶺の順で、途中のサービスを挟み、2回

つ走行。日曜のLEG2は大川嶺、西谷の順で同様に2回ずつ走ってフィニッシュという設定だ。ただしLEG2はリバース(逆走)での走行となる。

西谷はツイスティなコーナーが続くステージだが、道幅はそれほど狭くはなく、アベレージスピードもそんなに低くはない。大川嶺は稜線沿いに高速コーナーをクリアする抜群のロケーションを誇るステージだが、どちらの方向から走っても急勾配の上りを駆け上がり、後半はブレーキに負担のかかる、これまた角度の急なダ

ウンヒルが待ち受ける。

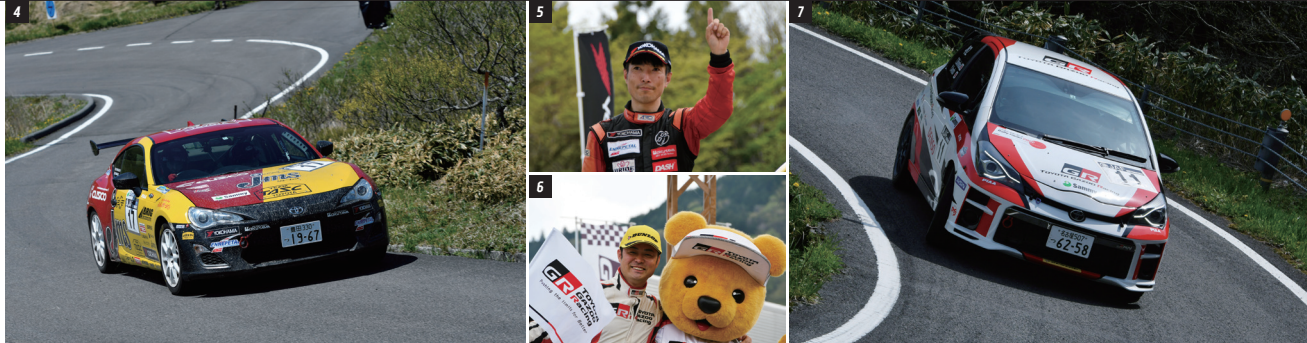
今回、最大の話題を集めたのは、昨年まで欧州でラリー修業を続けてきた、新井敏弘選手の子息、新井大輝選手がエントリーしてきたこと。大輝選手は今年も欧州ラリー選手権(ERC)に参戦する傍ら、父親と同じJN1クラスにGRBインプレッサWRX STIでの、この第4戦以降の参戦が決まったのだ。そしてラリーが始まると、この新井ジュニアが欧州修業の成果をいきなり見せつけることになる。

まず新井大輝／小坂典嵩組はSS1で2番手の勝田範彦／石田裕一組に5.2秒差のベストを奪うと、2ループめの同じ西谷のSS3でも、奴田原文雄／佐藤忠宜組を7.1秒差の2番手に従えるスーパーベストを再び叩き出す。一方、大川嶺では、奴田原組が速く、SS2、SS4と連続ベスト。ベストを取り合ったこの2台がライバルを大きく引き離す完全なマッチレースを展開する。

明けたLEG2。僅か1.2秒のリードで首位スタートとなった新井大輝組は、前日、奴田原組にリードを許した大川嶺のリバースとなるSS5でスパート。この奴田原組の『本丸』で逆

1.「変えてきたダンパーが凄く良かった。クルマが決まっていたことも大きかったと思います」。渡欧前よりワンランク上の走りを披露した新井大輝／小坂典嵩組が最高峰 JN1 で快勝した。2. LEG1前半はトップ2と遜色ない走りを見せた勝田範彦／石田裕一組だがペースが上がらず、3位でフィニッシュ。3. 奴田原文雄／佐藤忠宜組は西谷ステージでの遅れが響いて2位に甘んじた。





4.5. JN3クラスは山口清司／島津雅彦組がLEG1のリードを守り切って今季初優勝。6.7. JN2クラスは今回も眞貝知志／安藤裕一組がコンスタントな速さを見せて開幕4連勝をマーク。8. JN3の曾根崇仁／木村裕介組は今季最上位の2位を獲得した。9. 大川嶺ではベスト2本を奪った石井宏尚／寺田昌弘組がJN2で堂々の2位入賞。10. JN2山村孝之／マクリン大地組シトロエンDS3は3位を獲得。11. JN3でベスト2本獲得の長崎雅志／秋田典昭組は3位入賞。



12. JN6クラスでは大倉聡／豊田耕司組が大差で開幕4連勝を達成。13. JN5天野智之／井上裕紀子組も全SSでベストを奪って快勝した。14.15. 高橋悟志／古川智崇組は舗装3連戦で全勝とシリーズのリードを広げた。16. JN4関根正人／草加浩平組は3SSでベストを奪うも、2位に甘んじた。17. JN5岡田孝一／石田一輝組は2位に入賞。18.19. JN6板倉麻美／梅本まどか組は最終SSでベストを奪うなど今回も快走を見せて2位入賞。20. JN4の3位には西川真太郎／本橋貴司組が入賞。21. JN5で3位入賞の小川剛／藤田めぐみ組。22. JN6では中西昌人／福井林賢組が3位に入賞した。



に10秒のリードを奪うと、続くSS5西谷リバーでも奴田原組を7秒差に下して、完全にラリーの主導権を握った。SS5の再走となるSS7でもベストを奪取した新井大輝組は、最終のSS8ではペースをコントロールする余裕を見せてフィニッシュ。最終的には奴田原組を10秒差に下して、全日本復帰初戦を見事な白星で飾った。

「SS1は様子見でしたが、そこそこのタイムが出せれば勝負できると思ったので凄く集中して走りました。SS5は、上りで奴田原さんに負けても、ある程度のタイム差なら下りで逆転できると思ったので後半に勝負を賭けました。今

年参戦している86/BRZレースで学んだタイヤの使い方を活かしたのが今回は大きかったです」と大輝選手。グラベルとなる次戦モンテレーでのスピードに俄然、注目が集まることになった。

一方、前戦唐津で熾烈なトップ争いが演じられたJN3クラス。SS1は目下、2連勝中の山本悠太／山本磨美組86が断トツのベストを叩き出して先行するが、勢いが勝ったか、SS2で橋の欄干にクルマをヒットさせてしまい、タイヤバーストを喫して大きくタイムロス、勝負権を失ってしまう。SS1で3.8秒差の2番手につけた鈴木尚／矢柳静一郎組もSS2、駆動系トラブルでリタイアを余儀なくされる。代わって首位に立ったのがここ2戦、山本組の後塵を拝してきた山口清司／島津雅彦組の86。SS2から

3連続ベストを奪って、2番手につけた曾根崇仁／木村裕介組86に早くも40秒の大差をつけて折り返す。山口組はLEG2でも安定したペースをキープし、逃げ切って今季初優勝を飾った。

「セッティングを外してSS1はタイムが出なくて、SS2では実はぶつってるんですよ。ただ、それでサービスでセッティングを変えなきゃダメだということになって、変えてみたら良くなって、結果的には引き離された感じです。まあ今回は昨日のトップ2台のリタイアに助けられましたね」と山口選手。郷里でもある地元愛媛の一戦での勝利に安堵の表情を浮かべていた。なお最終SSまで続いた2位争いは最終の西谷リバーをベストで上がった曾根組が長崎雅志／秋田典昭組86を振り切っている。